

「令和 8 年熊本地震」

(1) 概要

2026年 7 月28日16時27分に熊本県熊本地方の深さ16kmでM7.1の地震が発生し、熊本県宇城市及び氷川町で震度 7 を観測したほか、九州地方から中部地方にかけて震度 6 強～ 1 を観測した。また、熊本県熊本で長周期地震動階級 4 を観測したほか、九州地方から近畿地方にかけて長周期地震動階級 3 ～ 1 を観測した。

気象庁はこの地震に対して、地震波検知から3.8秒後の16時27分21.9秒に緊急地震速報（警報）を発表した。また、同日16時29分に有明・八代海に津波注意報を発表し、同日18時10分に津波注意報を解除した。この地震で津波は観測されなかった。

この地震は地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

この地震以降、同日16時29分にM4.8の地震（最大震度 5 弱）、17時08分にM6.1の地震（最大震度 5 弱）、19時03分にM4.2の地震（最大震度 5 弱）、7 月29日22時19分にM5.8の地震（最大震度 5 弱）、8 月 1 日21時47分にM4.7の地震（最大震度 5 弱）が発生するなど活発な地震活動が継続しており、8 月12日08時00分までに震度 1 以上を観測した地震が622回（震度 7 ： 1 回、震度 5 弱： 5 回、震度 4 ： 22回、震度 3 ： 61回、震度 2 ： 155回、震度 1 ： 378回）^{（注）} 発生している。

今回の地震活動は日奈久断層帯の 3 つの区間（高野－白旗区間、日奈久区間、八代海区間）のうち、主に高野－白旗区間及び日奈久区間に沿って分布している。また、今回の地震活動域の北東の熊本県熊本地方から大分県中部にかけては「平成28年（2016年）熊本地震」の地震活動域が存在し、熊本県阿蘇地方から今回の地震活動を含む領域では、「平成28年（2016年）熊本地震」発生以前に比べ、地震活動が活発な状態が継続していた。

気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和 8 年熊本地震」と名称を定めた。

「令和 8 年熊本地震」により、死者39人、負傷者173人、住家全壊699棟などの被害が生じた（2026年 8 月 9 日10時00分現在）。

気象庁本庁、福岡管区气象台及び福岡管内の各地方气象台は、「令和 8 年熊本地震」により震度 5 強以上を観測した震度観測点及びその周辺を中心に気象庁機動調査班（JMA-MOT）を派遣し、震度観測点の状況及び地震動による被害状況の現地調査を行った。

「令和 8 年熊本地震」による被害状況を表 1－1 に、震度 1 以上の最大震度別地震回数表を表 1－2 に、震度 1 以上の日別地震回数グラフを図 1－1 に、主な地震活動の地震回数比較を図 1－2 に、気象庁及び各地の气象台が発表した主な情報及び報道発表を表 1－3 及び表 1－4 に示す。

（注）：掲載している地震回数は、後日の調査で更に変更となることがある。

表 1－1 「令和 8 年熊本地震」による被害状況
（2026 年 8 月 9 日 10 時 00 分現在、総務省消防庁による）

都道府県名	人 的 被 害				住 家 被 害		
	死者	行方不明者	負 傷 者		全壊	半壊	一部破損
			重傷	軽傷			
	人	人	人	人	棟	棟	棟
福岡県			1	1			8
熊本県	39		23	146	699	1,045	7,622
大分県				1			
鹿児島県				1			
合 計	39		24	149	699	1,045	7,630

震度1以上の地震の発生状況

【最大震度別・日別地震回数表】

(7月28日16時～8月25日10時)

日別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
7/28	87	59	33	11	3	0	0	0	0	1	194	194
7/29	92	37	10	4	1	0	0	0	0	0	144	338
7/30	42	15	3	2	0	0	0	0	0	0	62	400
7/31	23	8	3	0	0	0	0	0	0	0	34	434
8/1	22	6	1	0	1	0	0	0	0	0	30	464
8/2	19	9	1	1	0	0	0	0	0	0	30	494
8/3	13	2	1	0	0	0	0	0	0	0	16	510
8/4	15	4	2	1	0	0	0	0	0	0	22	532
8/5	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	542
8/6	13	4	1	2	0	0	0	0	0	0	20	562
8/7	5	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7	569
8/8	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	575
8/9	9	1	1	1	0	0	0	0	0	0	12	587
8/10	9	2	1	0	0	0	0	0	0	0	12	599
8/11	10	5	3	0	0	0	0	0	0	0	18	617
8/12	6	1	1	1	0	0	0	0	0	0	9	626
8/13	6	0	3	0	0	0	0	0	0	0	9	635
8/14	8	4	0	0	0	0	0	0	0	0	12	647
8/15	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	11	658
8/16	8	2	1	0	0	0	0	0	0	0	11	669
8/17	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	672
8/18	7	2	1	0	0	0	0	0	0	0	10	682
8/19	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	684
8/20	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	691
8/21	2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	5	696
8/22	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	699
8/23	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	703
8/24	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	7	710
8/25	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	711
総計	441	171	70	23	5	0	0	0	0	1		711

【最大震度別・時間別地震回数表】

(8月25日0時～10時)

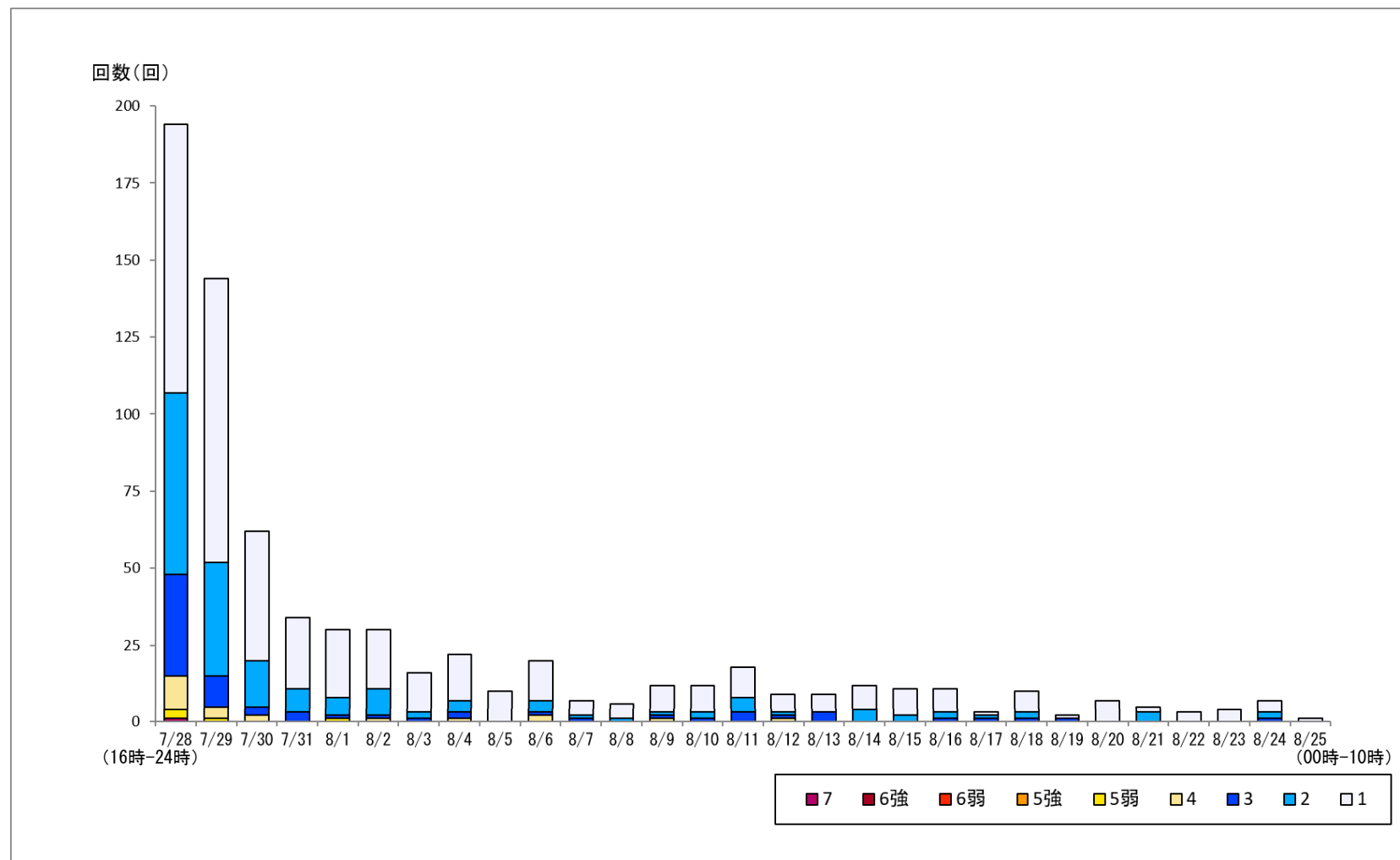
時間別	最大震度別回数										震度1以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7		回数	累計
8/25 00時～01時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	710
01時～02時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	710
02時～03時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	711
03時～04時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
04時～05時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
05時～06時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
06時～07時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
07時～08時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
08時～09時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
09時～10時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	711
総計	441	171	70	23	5	0	0	0	0	1		711

※掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがあります。

震度1以上の地震の発生状況

【日別地震回数図】

(7月28日16時～8月25日10時、震度1以上の地震)



※掲載している地震回数は、後日の調査で変更になることがあります。

気象庁作成

（２）地震活動

ア.「令和 8 年熊本地震」の地震活動

2026 年 7 月 28 日 16 時 27 分に、熊本県熊本地方の深さ 16km で M7.1 の地震（最大震度 7）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は北北西－南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央周辺では、M7.1 の地震発生後の同日 17 時 08 分に M6.1 の地震（最大震度 5 弱）、29 日 22 時 19 分に M5.8 の地震（最大震度 5 弱）が発生するなど、活発な地震活動が継続しており、28 日から 8 月 1 日にかけて震度 5 弱以上の地震が 6 回発生している。

今回の地震活動域付近には、布田川断層帯、日奈久断層帯が存在している。地震調査研究推進本部地震調査委員会は、「M7.1 の震源断層は、日奈久断層帯の日奈久区間の北東部及び高野－白旗区間の一部に及んでいると考えられる。」と評価した。気象庁は、この地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動について、「令和 8 年熊本地震」と名称を定めた。

2000 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震活動域の周辺（領域 a）では「平成 28 年（2016 年）熊本地震」が発生している。「平成 28 年（2016 年）熊本地震」では、熊本県で死者 275 人、大分県で死者 3 人などの被害が生じた（熊本県は 2025 年 4 月 11 日現在、熊本県による、その他は 2019 年 4 月 12 日現在、総務省消防庁による）。

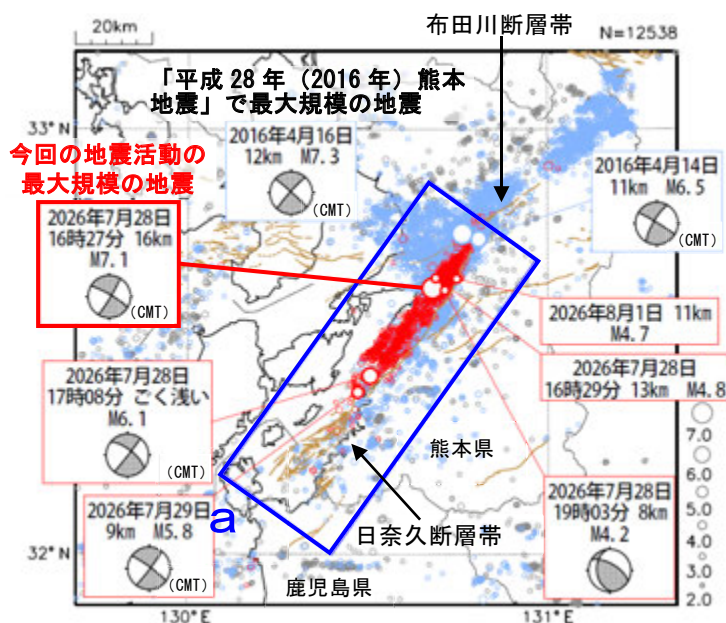


図 2－1 震央分布図

（2000 年 10 月 1 日～2026 年 8 月 1 日

深さ 0 ～20km、 $M \geq 2.0$ ）

2016 年 4 月 14 日 21 時より前に発生した地震を灰色○、

2016 年 4 月 14 日 21 時から 2026 年 7 月 28 日 16 時まで

に発生した地震を青色○、

2026 年 7 月 28 日 16 時以降の地震を赤色○で表示

茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

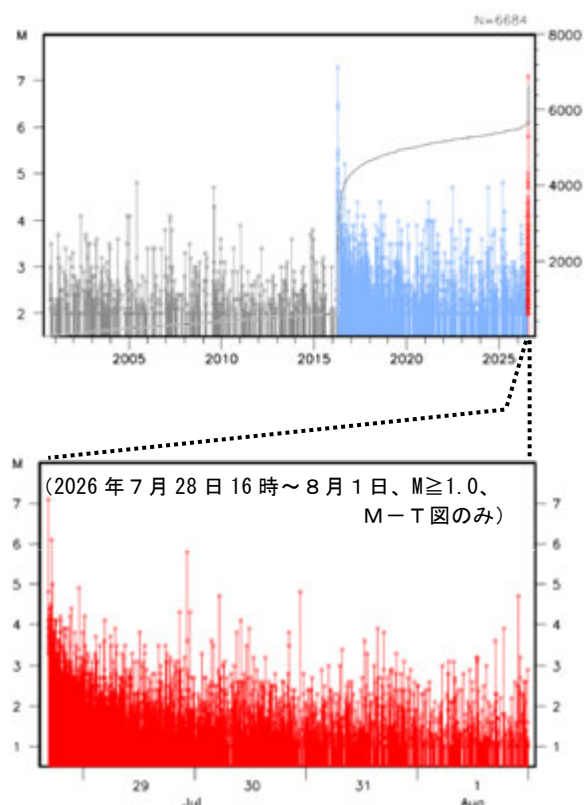


図 2－2 領域 a 内の M－T 図及び回数積算図

イ. 発震機構

2000年10月以降に発生した地震の発震機構分布及び発震機構の張力軸の分布を図2-3に示す。また、図2-3の領域b内の地震の発震機構の型の分布及び張力軸の向きの分布を図2-4に示す。

今回の地震の震央付近では、横ずれ断層型や正断層型の地震が多く見られ、発震機構の張力軸の向きは南北方向や北北西-南南東方向の地震が多い。今回の地震（M7.1）は、発震機構が北北西-南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

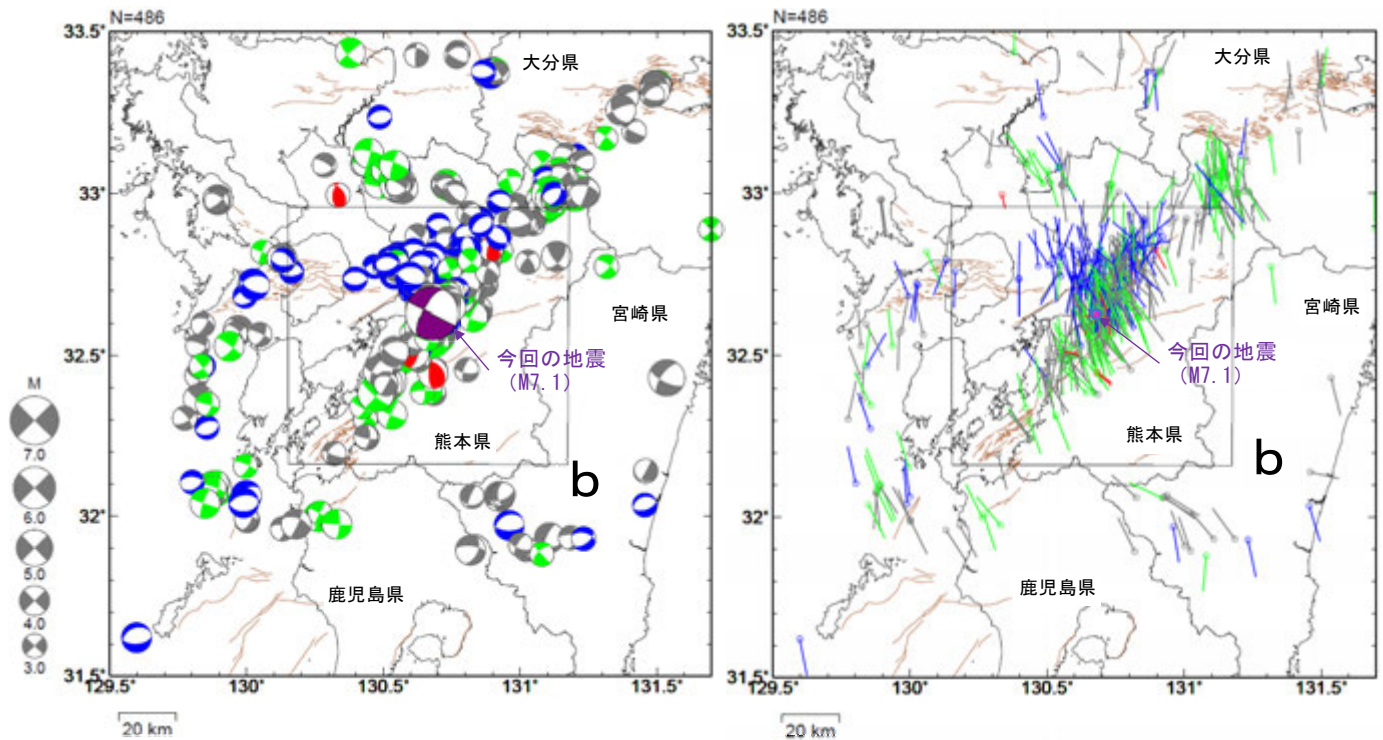


図2-3 発震機構分布図（左）、発震機構の張力軸の分布（右）

期間：2000年10月1日～2026年8月3日、深さ：0～20km、 $M \geq 3.0$ 、発震機構は初動解による（震源の位置に表示）。**逆断層型の地震を赤色、正断層型の地震を青色、横ずれ断層型の地震を緑色**で表示（Frohlich (2001)による分類）。2026年7月28日の地震（M7.1）は紫色で示した。茶色の実線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

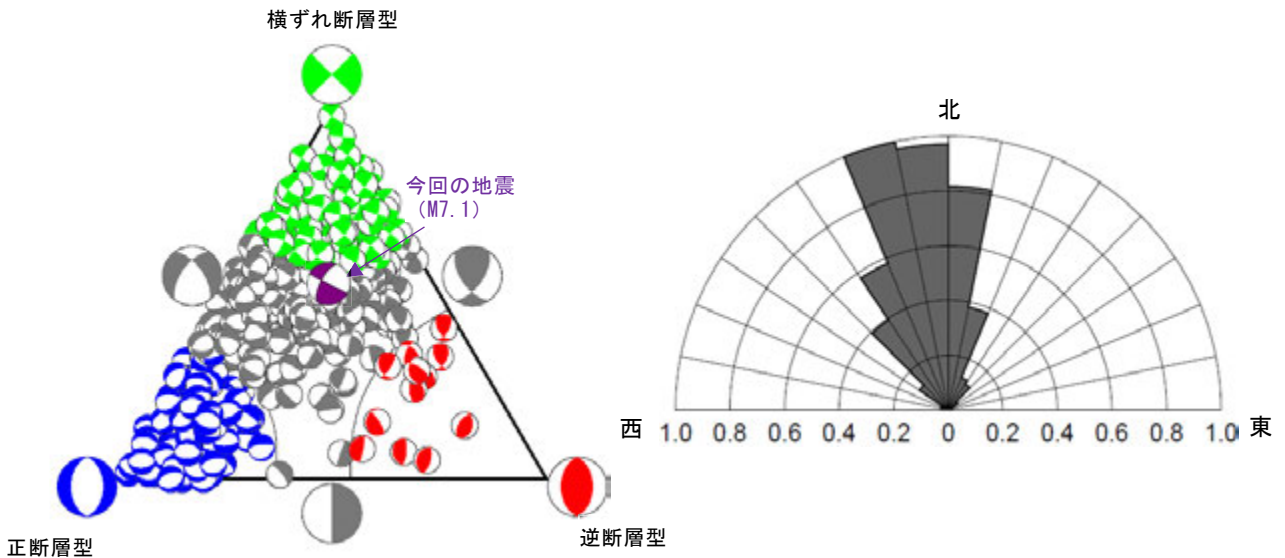


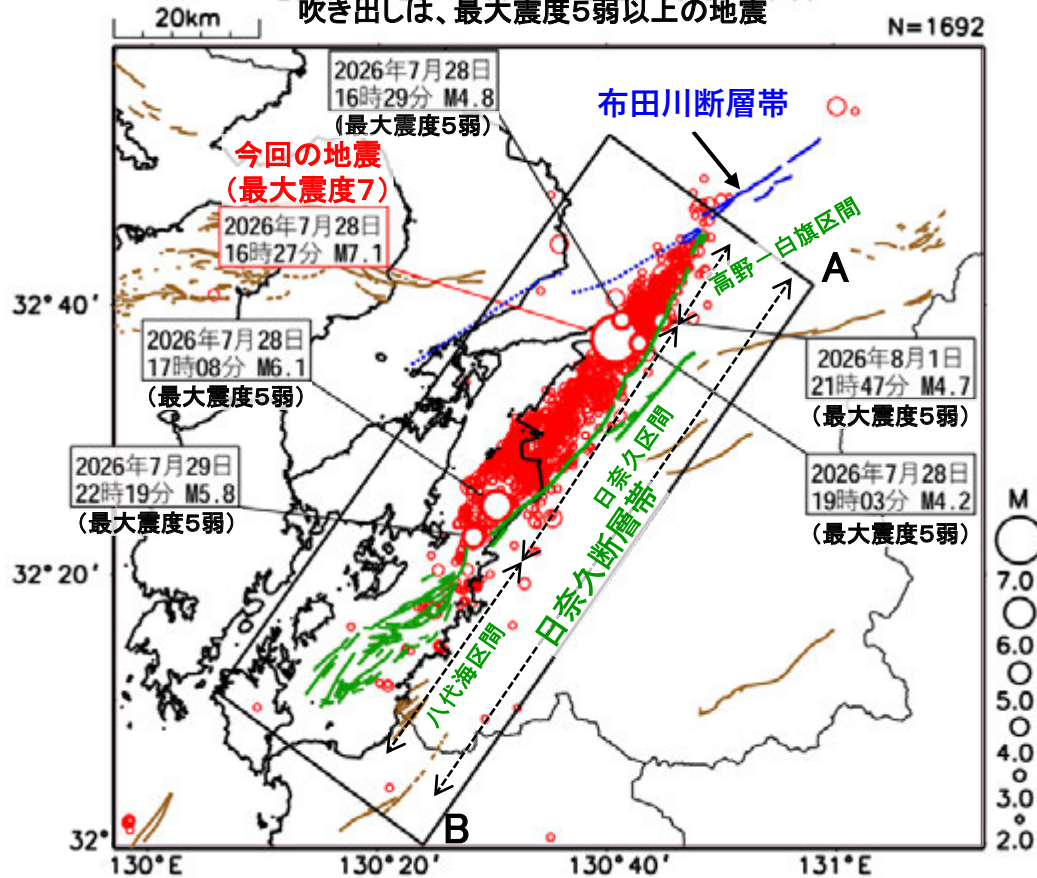
図2-4 図2-3の領域b内の地震の発震機構の型の分布（左）及び発震機構の張力軸の方位分布（右）
発震機構の型の分布は、**逆断層型の地震を赤色、正断層型の地震を青色、横ずれ断層型の地震を緑色**で表示（Frohlich (2001)による分類）。2026年7月28日の地震（M7.1）は紫色で示した。

「令和8年熊本地震」の地震活動 (発生場所の詳細)

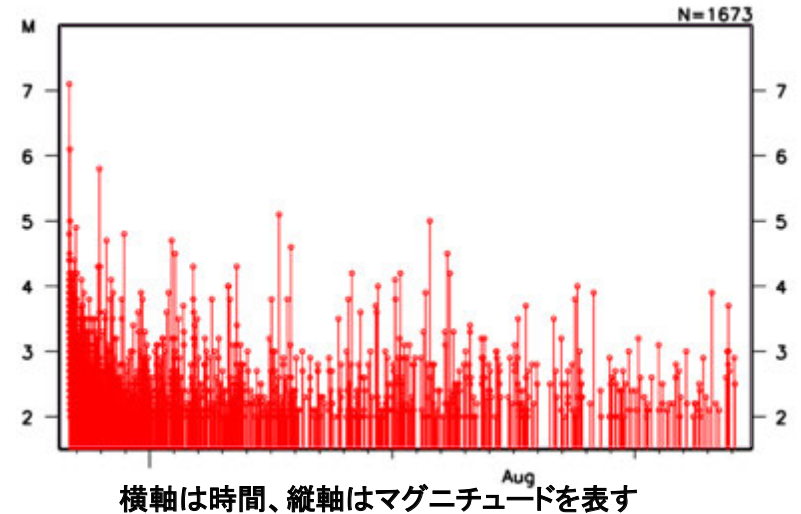
震央分布図

(2026年7月28日16時～8月25日10時00分、
深さ0～20km、M2.0以上)

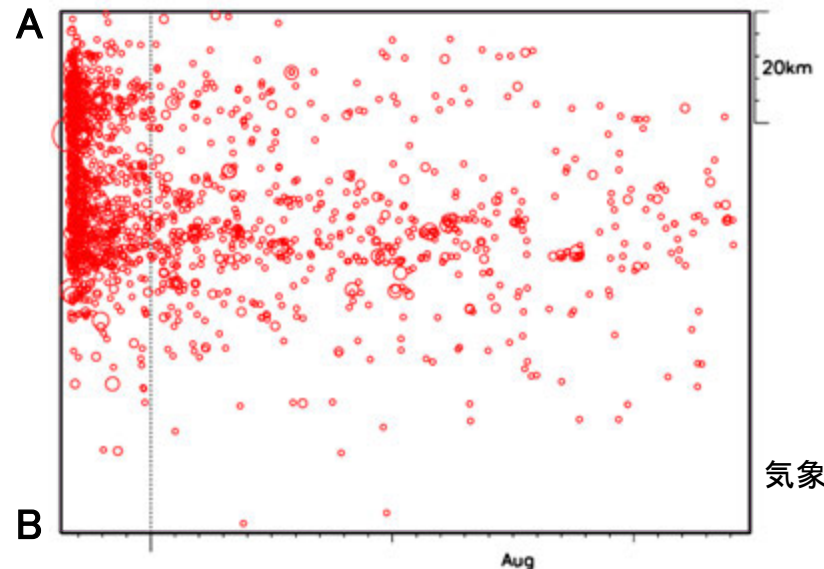
吹き出しは、最大震度5弱以上の地震



左図の四角形領域内の地震活動経過図



左図の四角形領域内の時空間分布図 (A-B投影)



気象庁作成

(3) 震度と加速度

2026年7月28日16時27分に発生した地震（M7.1）により、熊本県宇城市及び氷川町で震度7を観測したほか、九州地方から中部地方にかけて震度6強～1を観測した。この地震の震度分布図を図3-1に、推計震度分布図を図3-2に、震度5弱以上を観測した地点の計測震度及び最大加速度を表3-1に示す。

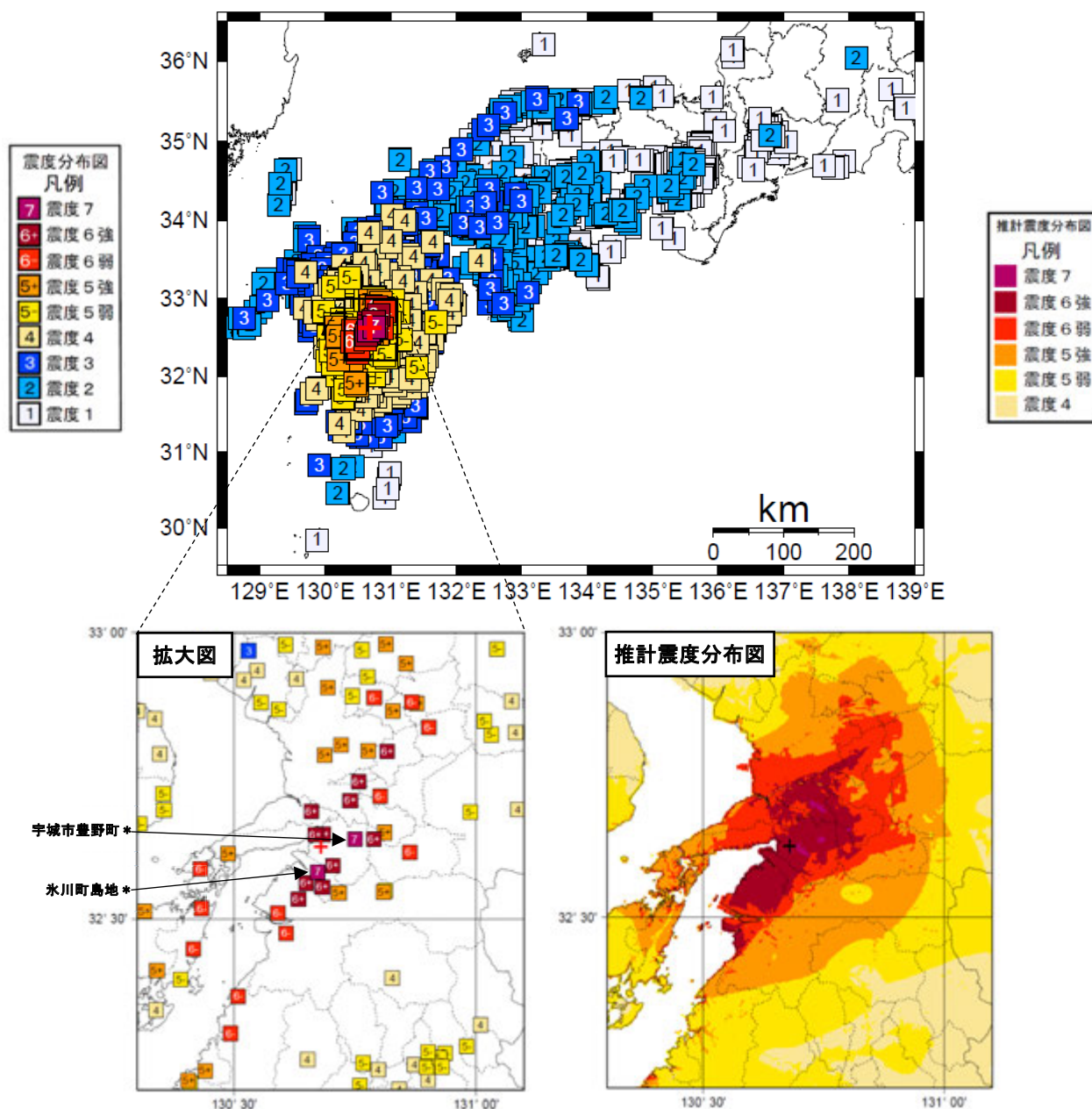


図3-1 2026年7月28日16時27分 熊本県
熊本地方の地震（M7.1、最大震度7）
の震度分布図

図3-2 2026年7月28日16時27分 熊本県
熊本地方の地震（M7.1、最大震度7）
の推計震度分布図

観測点名の＊印は、気象庁以外の震度観測点を示す。

※本推計震度分布図は、地震発生当日に作成されたものである。

図中の＋印は震央を示す。

<推計震度分布図について>

地震の際に観測される震度は、ごく近い場所でも地盤の違いなどにより1階級程度異なることがある。また、このほか震度を推計する際にも誤差が含まれるため、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがある。

このため、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目して利用されたい。